

科目名		産業人間工学特論	
科目責任者		庄司 卓郎 (安全衛生マネジメント学 講師)	
開講時期:	1年次後期	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>種々の評価指標を用いて、疲労、メンタルワークロード、ストレス、快適性等のひとの状態を計測する手法を理解する。 さまざまな事件事例を知ることにより、事故の原因が理解でき、その対策の検討ができる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ひとの生理反応の特徴を説明できる。</li> <li>2) 産業疲労の概念とその評価法が説明できる。</li> <li>3) メンタルワークロードの概念とその評価法が説明できる。</li> <li>4) ストレスの概念とその評価法が説明できる。</li> <li>5) ストレス対処法について説明できる。</li> <li>6) 快適性の概念について説明できる。</li> <li>7) いくつかの重大な事故について、その概要が説明できる。</li> </ol>			
● 評価方法	討議への参加(発言)20%、発表内容40%、課題レポート40%で総合評価する。		
● 参考文献	講義の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業スケジュール

回	項目	内容	担当教員
1	ひとの生理反応	自律神経系反応を主とした生体反応の基礎	庄司
2～6	生理計測	種々の生理計測の方法とその意義	庄司
7～8	産業疲労Ⅰ	疲労の概念とその評価法	庄司
9	産業疲労Ⅱ	慢性疲労の評価法	庄司
10	産業疲労Ⅲ	過重労働・長時間労働とその対策	庄司
11～12	メンタルワークロード	メンタルワークロードの概念とその評価方法	庄司
13	ストレスⅠ	ストレスの概念、評価方法、対処法	庄司
14	ストレスⅡ	職業性ストレスとメンタルヘルス	庄司
15	ストレスⅢ	職場のストレスマネジメント	庄司
16	ストレスⅣ	ワーク・ファミリーコンフリクトと職場適応	庄司
17～18	快適性	快適性の概念とその構築方法	庄司
19～20	身体人間工学	作業関連筋骨格系障害、バイオメカニクス	庄司
21～22	ヒューマンエラーⅠ	ヒューマンエラーに係わる事故事例と対策	庄司
23	ヒューマンエラーⅡ	ヒューマンエラーに係わる人間特性と対策	庄司
24	ヒューマンエラーⅢ	安全文化と安全行動	庄司
25～26	産業事故Ⅰ	産業事故事例と対策	庄司
27	産業事故Ⅱ	事故分析	庄司
28	産業事故Ⅲ	安全工学的対策	庄司
29	課題発表Ⅰ	前半の講義テーマに関して、学習成果を発表する。	庄司
30	課題発表Ⅱ	後半の講義テーマに関して、学習成果を発表する。	庄司